新中央診療棟基本設計案概要版

平成 30 年 4 月版

地方独立行政法人
岐阜県立多治見病院

設計：共同建築設計事務所・熊谷設計　特別共同企業体

●基本理念　『安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。』

岐阜県東濃・可茂地域における基幹病院として、高度急性期・急性期の医療機能を拡充します。

- ○ 外来・放射線診断・手術部門等のある中央診療棟を病院南側駐車場敷地で建て替えるとともに、東病棟の救命救急・集中治療部門等を移設し、高度急性期・急性期医療での機能統合・効率化を図ります。
- ○ 東病棟を改修し、中央診療棟の事務管理部門等を移設するなどして活用します。
- ○ 高度先進性、利便・効率・安全性及び拡張性（変化への対応）の向上・拡充を基本とし、整備・改修を行います。

1. 新中央診療棟整備・東病棟改修の概要

＜新中央診療棟の概要＞

- ○ **建設場所：**現在の南側駐車場
- ○ **延床面積：**約 23,000 ㎡
- ○ **構造等：**地上 7 階地下 1 階、鉄骨造、免震構造
- ○ **東棟改修面積：**12,858 ㎡のうち約 6,100 ㎡
- ○ **新中央診療棟開設予定：**平成 34 年度

＜整備・改修後の病院全体の姿＞

- ○ **病床数：**575 床（現在と同じ）
- ○ **病院全体の延床面積：**64,700 ㎡（約 9,700 ㎡増）
- ○ **外来駐車台数：**約 550 台（現状より約 150 台増）

＜事業スケジュール＞

区分	H29 年度		H30 年度		H31 年度		H32 年度		H33 年度		H34 年度		H35 年度	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
設計	→	→	→	→										
新中央診療棟新築工事	基本設計（12 ヶ月）		実施設計（12 ヶ月）				新中央診療棟新築工事（18 ヶ月）			開院準備	開院			
東病棟改修及び中央診療棟解体工事										仮移動	受水槽設置（6 ヶ月）			
										東病棟改修（6 ヶ月）		中央診療棟解体（6 ヶ月）		外構整備（6 ヶ月）
立体駐車場整備			立体駐車場設計・建設（12 ヶ月）		→	→								

2. 基本的な考え方

Ⅰ 高度先進的な医療機能の拡充

- ○ 高度な医療技術と最先端の医療設備に対応した手術室 12 室（ハイブリッド手術室・ロボット手術が可能な大手術室を含む）
- ○ 救命救急センター整備による高度急性期医療機能の拡充　ICU8床・CCU3床・HCU9床
- ○ 新生児センター（仮称）整備による周産期母子医療センター機能の拡充　NICU9 床・GCU11 床
- ○ 化学療法センター整備による地域がん診療連携拠点機能の拡充　40 床（東病棟 2 階改修）
- ○ 更新・増設に対応でき、拡張性のある放射線診断部門の拡充
- ○ 感染症対策にも十分配慮した内視鏡検査・治療部門の拡充

Ⅱ 診療機能の効率性・安全性の向上

- ○ 新中央診療棟への主要診療機能の集約化
- ○ 検査説明センター（仮称）新設、ブロック受付方式による外来診療の効率化
- ○ 外来日帰りセンター（仮称）の新設、処置・注射及び日帰り手術後リカバリーの効率化
- ○ 効率的で安全な救急搬送動線の整備
- ○ 災害医療のためのトリアージスペース整備

Ⅲ 患者サービス・利便性・プライバシーの向上

- ○ 患者・家族にわかりやすく、高齢者・障がい者等が利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した動線・案内、エスカレーター整備
- ○ ゆとりある外来、遮音を考慮した診察室・待合の整備による患者プライバシー配慮
- ○ 患者総合支援センター（仮称）新設など、十分な相談室・面談室配置
- ○ 在宅療養支援センター（仮称）の新設
- ○ 医療的ケア障がい児等とその家族等のためのレスパイト入院の実施
- ○ 駐車場の立体化、コンビニ等の設備拡充
- ○ セキュリティ向上のための設備拡充

Ⅳ 防災・浸水・環境ｴﾈﾙｷﾞｰ対策の強化

- ○ 災害拠点病院として大規模地震にも対応する免震構造
- ○ 浸水リスクに対応するため、敷地外周に沿った防潮堤、エネルギー・機械設備の屋上配置
- ○ 防災ヘリコプターが発着可能なヘリポート整備
- ○ 高効率な熱源供給システム導入及び井水の補助熱源としての活用
- ○ 環境にやさしい地元産タイルで外壁を整備

3. 配置計画

① 平面駐車場と立体駐車場を合わせて患者用駐車場を約 550 台確保します。

② 構内通路は一方通行として十分な長さを確保し、渋滞緩和を図ります。

③ 一般利用者と救急、時間外利用者の入口を明確に分離し、分かりやすいアプローチとします。

④ 主玄関とは分離して時間外・救急（歩行）、感染入口を設けます。

⑤ 救急車入口までは専用動線とし、来院者の通行の妨げにならないようにします。

⑥ サービス用動線は他の動線と分離し、スムーズな運用を可能にします。

⑦ 敷地内に歩行者通路を設け、安全に配慮します。

⑧ 主な歩行者通路にアーケードを設けます。

⑨ 既存の植栽帯は残し、地域の緑化に貢献します。

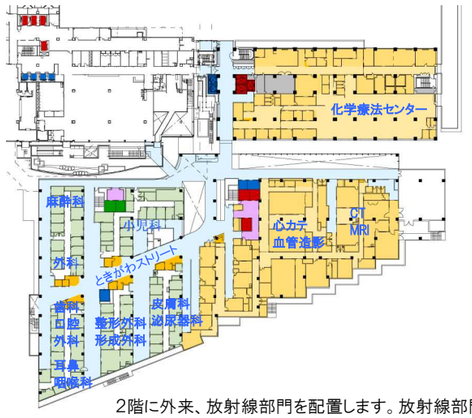
⑩ 浸水対策として敷地境界に沿って防潮植栽帯を設けます。

4. 平面計画

■1 階平面図

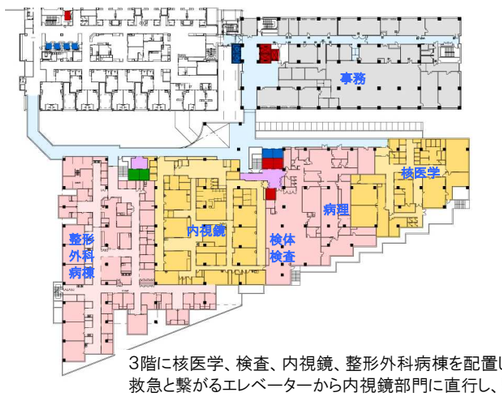
1階に救急、外来、中央採血、患者総合支援センターなど患者の利用頻度の高い部門を配置し利便性に配慮します。外来中央部には外来日帰りセンターを設け、処置・注射及び日帰り手術後リカバリーの効率化を図ります。救急から上階の手術部、救命救急センターへ直接アプローチできるエレベーターを配置します。

■2 階平面図



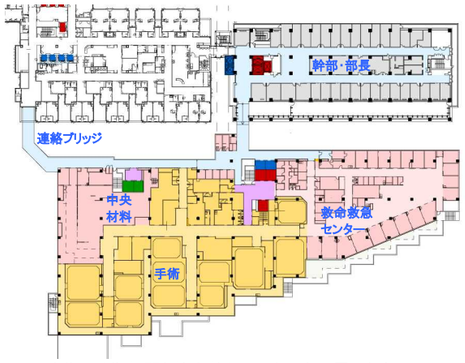
2階に外来、放射線部門を配置します。放射線部門は水害対策として上階へ配置し、また東側に将来拡張スペースを確保します。
管理棟（現東病棟）には、化学療法センターを患者が利用しやすい位置に配置します。外来はブロック受付とし、『ときがわストリート』に面して各診療科の位置がよくわかるよう配置します。

■3 階平面図



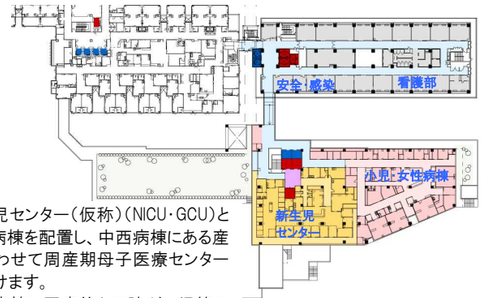
3階に核医学、検査、内視鏡、整形外科病棟を配置します。
救急と繋がるエレベーターから内視鏡部門に直行し、緊急対応をスムーズにします。

■4 階平面図



4階に手術部門と救命救急センターを配置します。
手術室 12 室にはハイブリッド手術、ロボット手術が可能な大型の手術室を設けます。既存中西病棟から手術室への経路には、連絡ブリッジを設けます。

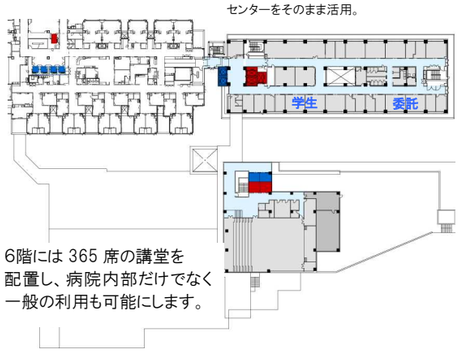
■5 階平面図



5階に新生児センター（仮称）（NICU・GCU）と小児・女性病棟を配置し、中西病棟にある産科病棟とあわせて周産期母子医療センターの機能を設けます。
小児・女性病棟に医療的ケア障がい児等のレスパイト入院用の病室を設けます。

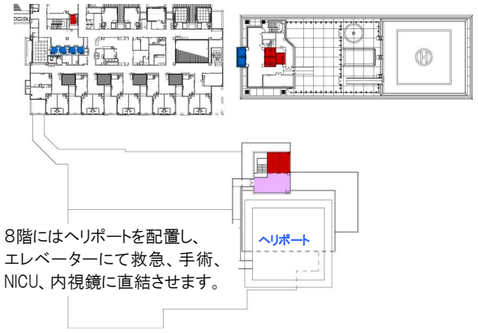
■6 階平面図

※新中央診療棟 7 階は、6 階講堂の上部となる。
管理棟（現東病棟）7 階は、既存の血液浄化センターをそのまま活用。



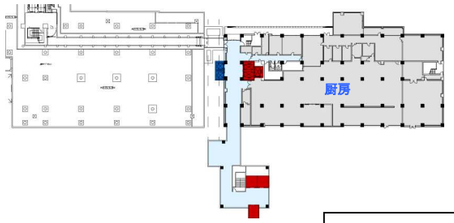
6階には 365 席の講堂を配置し、病院内部だけでなく一般の利用も可能にします。

■8 階平面図



8階にはヘリポートを配置し、エレベーターにて救急、手術、NICU、内視鏡に直結させます。

■地下 1 階平面図



地下階には既存棟との連絡廊下を設け、給食、物流サービスの動線とします。

凡例
- 乗用エレベーター
- 搬送用エレベーター
- 物流用エレベーター

5. 地域ブランド活用

内外装に岐阜県の豊富な資源である木材、地元で生産されるタイルを使用するほか、サイン、照明計画等においても美濃和紙等の地域資材を使用することで、患者、利用者にとってあたたかみのある空間を創出し、地域の顔となる建築を目指し、地域振興にも貢献します。

タイルを利用した外装
（既存中西病棟）

県産の木材を利用した内装
（既存中西病棟）

〇木とタイルの列柱エントランスホール

- 新中央診療棟と中西病棟、管理棟（現東病棟）とを結びつけ、将来にわたり病院動線の主軸となる空間として、県産集成材の列柱を配置したエントランスホールを設置します。
- 総合受付付近には地元の高名な彫像作家によるブロンズ像をモニュメントとして配置します。
- 災害時にはトリアージスペースとして機能します。
- 将来の管理棟（現東病棟）解体後には、アプローチに面した分かりやすい　エントランスホールとして全貌を現すことになります。

①外来ブロック受付

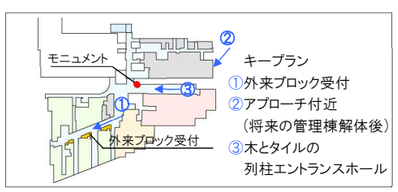
②将来の管理棟（現東病棟）解体後のアプローチ付近

可児市在住の彫刻家 神戸峰男（かんべみねお）氏の作品で、平成30年3月に中央診療棟中庭に設置したブロンズ像『生命（いのち）』を、新中央診療棟1階エントランスホールの総合案内付近に移設する予定。

①左上図：外来ブロック受付と待合空間のイメージ図。
フロアの全てのブロック受付を一望でき、
各診療科の位置がわかりやすい配置とします。

②左下図：将来の管理棟（現東病棟）解体後のアプローチ付近のイメージ図。ガラス越しに内部の様子がうかがえます。

③右図：木とタイルの列柱エントランスホールイメージ図。
建物群を結びつけた主軸動線と、視認性の高い吹抜け空間を配置します。病院建物の全体を直感的に把握しやすくなり、利用者にとっての分かりやすさを実現します。



③木とタイルの列柱エントランスホール内観

・県産集成材の列柱
・地元産タイルのギャラリー
・ブロンズ像のモニュメント設置